

わす

城と史蹟を歩く会「江戸城、皇居東御苑」ご案内資料

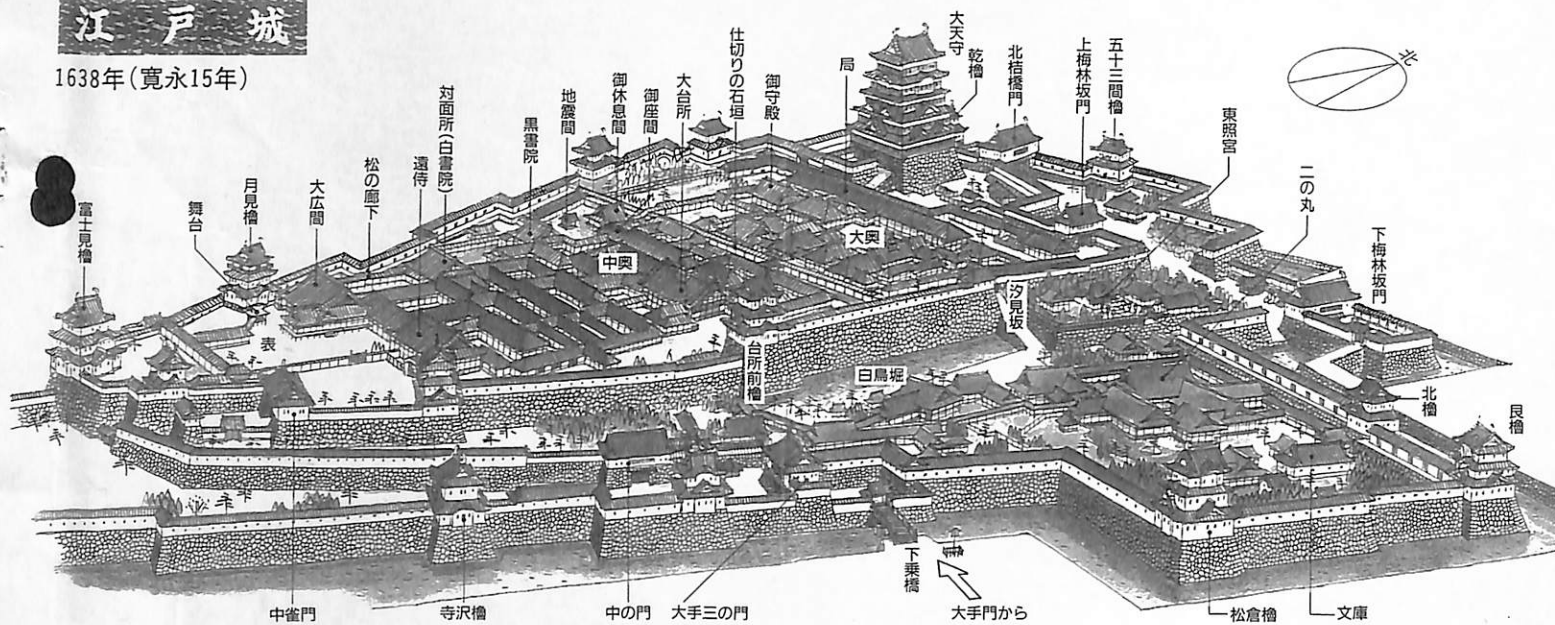
<日時> 平成13年5月8日(火曜日) 10時00分~16時30分(予定)

<主要行程> 八幡宿駅8時10分乗車 — 東京駅 — 和田倉御門(スタート) — 巽櫓
 — 大手門 — 皇居東御苑 — 大手3の門 — 本丸御殿跡 — 富士見櫓
 — 松の廊下跡 — 天守台 — 北の丸公園(昼食) — 北はね橋(再入苑)
 — 本丸展望台 — 塩見坂 — 2の丸庭園 — 平川門 —
 大手町または竹橋駅 — 東京駅 — 八幡宿駅17時30分ころ

山岸 弘明

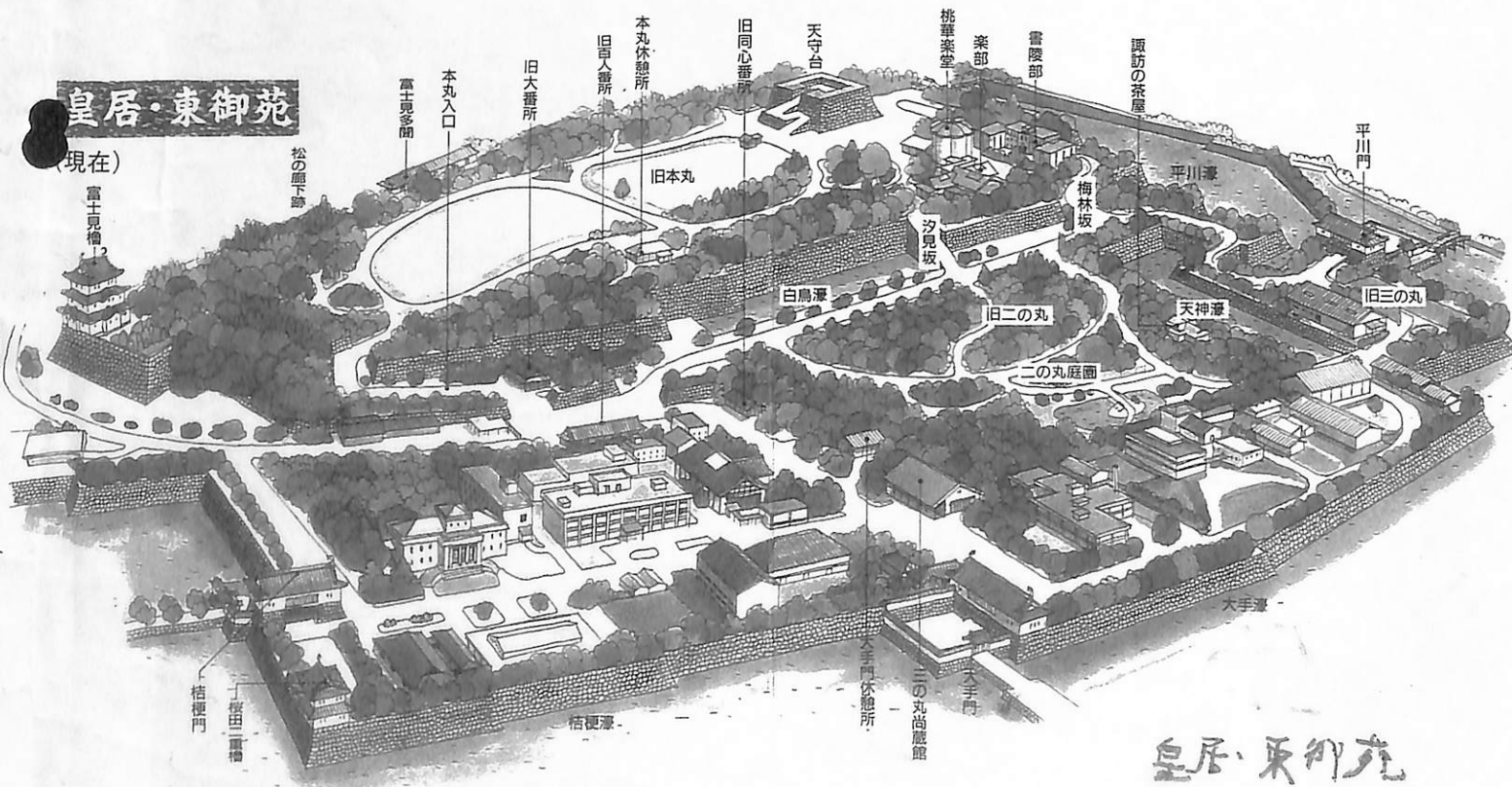
江戸城

1638年(寛永15年)



皇居・東御苑

(現在)

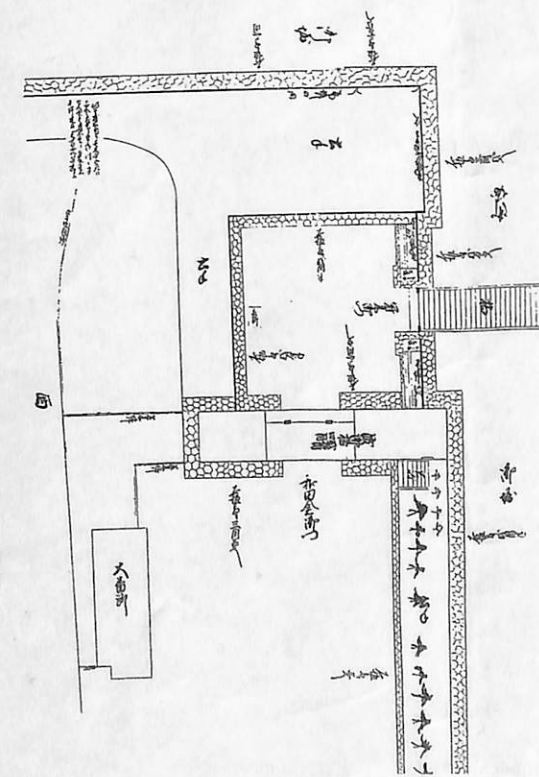


皇居東御苑

- 1) 和田倉御門跡(周辺石垣現存、木橋復元)
 - ①江戸城丸の内と西の丸下を結ぶ和田倉濠の橋と門
 - ②元和6年枳形門構築。隅櫓は明暦3年、高麗門大正12年焼失、渡櫓明治6年棄却
 周辺石垣、橋台、木橋、高麗門、内枳形左折、渡櫓門(20×4間)、隅櫓(和田蔵2重櫓)
 木橋は復元だが、周辺内濠と升形石垣は旧態をよくとどめている

- 2) 皇居外苑(旧西の丸下郭=西の丸下、馬場先御門内、和田蔵御門内跡)
 - ①往古は日比谷入江が入り組んだ湿地帯で漁師町。徳川家康江戸入り直後の江戸城工事残土で整地し、魚などの商売人が集まった。江戸幕府成立後の慶長12年ころから諸大名邸地、慶長19年西国大名を動員した石垣修築工事で西の丸下郭完成
 - ②江戸城本丸、西の丸に隣接した防御拠点。内郭の一部。初期は榊原康政、井伊直政、本多忠勝、大久保忠隣、鳥居忠政ら徳川幕府創設期の重臣邸が並ぶ
 - ③江戸後期は老中、若年寄ら幕閣官邸街、就任とともに支給、退任で没収された
 - ④和田倉御門周辺は松平保科会津23万石上屋敷。最後の藩主容保は幕末勤皇攘夷の嵐の中、京都守護職に就任。鳥羽伏見の戦いに敗れたあと15代將軍慶喜にしたがって江戸に戻り、維新の戦いは奥羽越列藩同盟の中心として最後まで官軍に抵抗した
 - ⑤明治維新後新政府官邸街をへた明治21年宮城前広場、戦後昭和26年国民広場として開放

- 3) 桜田巽櫓、桔梗御門、富士見櫓(一部現存材復元)江戸城定番の3点セット
 - ①坂下御門、宮内庁、桔梗御門遠望
 - ②巽櫓=3の丸唯一の櫓。本丸南東巽の方角。もっとも江戸城を感じさせる櫓。白壁と老松の緑が内堀に写って美しい。関東大震災倒壊、コンクリート復元
 2重櫓。初重平側千鳥破風妻側破風なし、石落とし、出窓は弓鉄砲狭間、2重入母屋屋根、本瓦葺きシャチ付き、飾り破風なし、狭間
 - ③巽櫓、桔梗門、富士見櫓の3点セット=テレビ、映画の江戸城定番
- 4) 桔梗濠と周辺石垣(現存)
 - ①桔梗濠=桔梗御門↔大手御門の濠。内堀北側の終点。銀行会館の辰の口から道三濠に
 - ②石垣=屏風折れ、歪み、折れ。白壁めぐる



↑↑ 和田倉内

江戸城3点セット



5) 大手御門従者待合所跡

- ①毎月1、15日、1月1日、3月3日、5月5日などの式日は参勤大名の総登城日、登城ラッシュ。
順番通り登城のため大名家は町角に係員配備、合図で待て前進
- ②大名にしたがって城内に入れる供わずか+カゴかつぎ、草履持ちなど3の丸下乗門まで
ほかは大名家ごと敷物で待機。広い大手御門前も諸大名の従者で埋まる

6) 大手御門 (一部現存材復元)

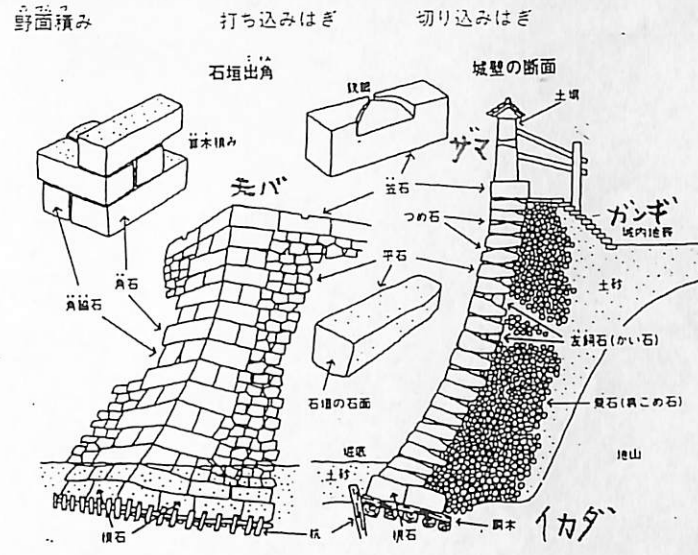
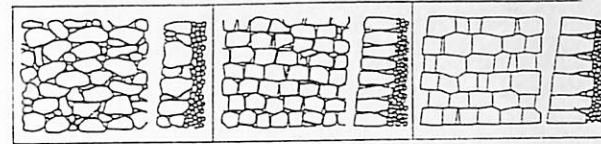
- ①江戸城の正門。元和6年伊達政宗造営。栄誉だが出費も莫大。黄金2,600枚、延べ42万人動員
- ②土橋=江戸時代は橋台で濠水をセキ止め、中央に木橋
- ③高麗門=本柱、支柱。コの字形、切妻屋根、本瓦葺き。現存門扉、鉄板、釘注目
- ④枳形=桜田門と違う四方石垣、正式な形。周囲の石垣、白壁。ガンギ坂、銃座(狭間との違い)
- ⑤シャチ=明暦3年。瓦製。架空の聖獣。水に棲息して水を吹く。火除のまじない
- ⑥渡櫓門=両脇に石垣。2階に渡櫓(22x4間)。大入母屋屋根、本瓦葺き。鉄板張り大御門
昭和20年焼失、48年復元。巨大柱と梁
- ⑦大番所跡=平日60人、登城日100人。10万石譜代大名警固。明け6つ(日の出)開門、暮れ6つ
(日没)閉門
- ⑧内側は3の丸=3の丸御殿。綱吉生母桂昌院ら居住。現在は宮内庁病院など

7) 皇居東御苑受付 (入苑無料)

- ①東御苑受付=各自入場札を受領、出口で返却。なくさないこと
- ②苑内は皇宮警察と宮内庁職員が巡回警備。マル秘=かなりうるさい
- ③3の丸休憩所=トイレ、飲物、おみやげ(食べものはありません)

8) 下乗橋、大手3の門跡(石垣現存)

- ①天神濠、蛤濠跡、下乗橋跡=3の丸と2の丸の間の濠と木橋
大名は下乗橋までカゴで乗り入れ以後は徒歩。カゴかつぎは3の丸の従者待合所で待機
- ②大手3の門枳形=高麗門、内枳形左折れ、渡櫓門
- ③同心番所(現存)=下乗橋前から移築。説明パネルの大名登城図が判りやすい
- ④銅門跡=大手3の門とセット。2の丸御殿の正門。門扉が銅板張り



石垣の構築(大阪城ものがたり、江戸の町)

9) 百人番所(現存)

- ①大手3の門の大番所。城内最大の警固ポイント。最後の人別改め
- ②甲賀、根来、伊賀など忍者4組各100人交代勤務

10) 幕府金蔵跡(遠望)

- ①何百万両ともいわれた大判、小判、金塊を保管。江戸開城時はゼロ?小栗上野介の埋蔵金伝説も
- ②嚴重な警固体制。破られることなどありえないはずの金蔵に盗賊
江戸後期安政2年、2人組盗賊が未使用小判1万両を盗みだす。うち4千両城外、6千両は濠へ
廃棄。犯人は2年後富山で捕縛、江戸で獄門ハリツケ

11) 中の御門跡(石垣現存) 大番所(現存)

- ①間仕切り門。江戸城主要城門唯一の形式。大番所説明パネル写真参照
- ②巨石にも注目。江戸城最大規模の石材
切込みハギ=精密加工した石材をレンガのように積み上げる。元和以降の石組方法

12) 本丸石垣(現存)

- ①慶長9~12年の第1期江戸城工事で構築。積み直しあり。高さおよそ30m(後出)
- ②打ち込みハギ=あら加工した石材を積み上げ、隙間に小石を挟む。慶長~元和の石組方法
野ズラ積み=加工しない石材を積み上げる。慶長以前の石組方法。江戸城の主要部にはない
- ③算木組=コーナー部分の石組方法。長方形の大石を縦横交互に積み上げる。堅固さの秘密



↑中の御門
百人番所



ビシの老木に
保ゾレして
中は現在も...



↑大手御門



シャチ
大手従者待合所図



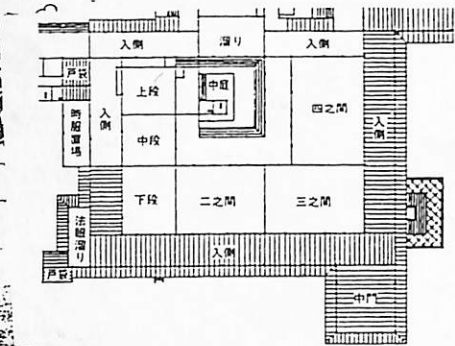
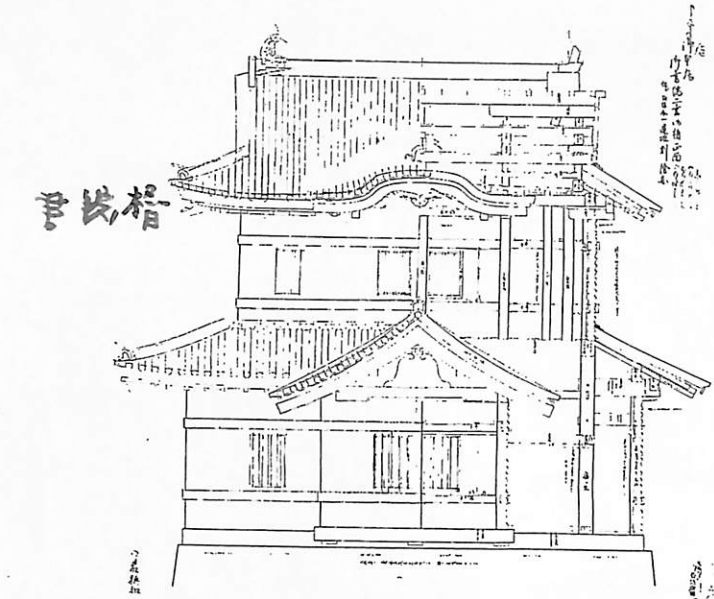
大手3の丸内跡



石垣前内アト



書院前内印写去



- 15) 富士見櫓 (一部現存材復元)
- ①江戸後期15櫓の1つ。最盛期は本丸15、すべて30基
 - ②説明パネル写真は西の丸側櫓台一般参賀のコースから。みえない裏側は御三階のよう
 - ③慶長11年、石垣は加藤清正構築。3重櫓。明暦大火で天守閣焼失後の代理天守、歴代将軍が時折この櫓から富士山、江戸湾、両国の花火を眺めた。維新後も残ったが関東大震災で倒壊

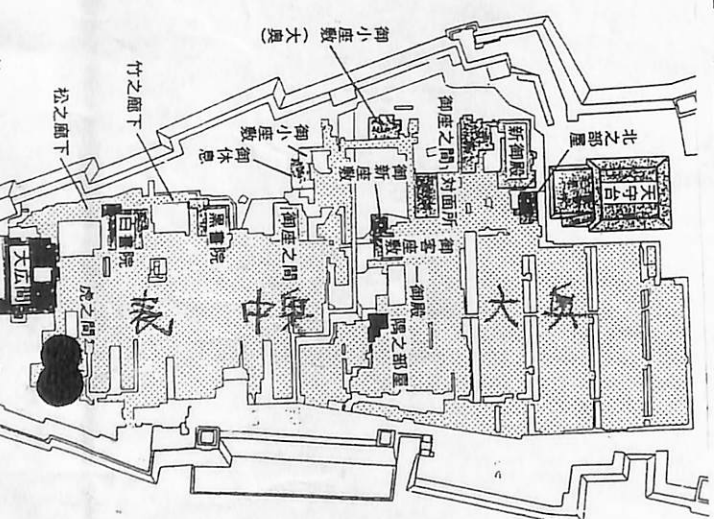
- 16) 松の大廊下跡
- ①大広間と白書院を結ぶ廊下。畳敷2間半巾、濡縁付き。内側は庭園、外側は三家溜の間など襖に松の絵を描く
 - ②元禄14年3月14日、浅野内匠頭が吉良上野介に刃傷、忠臣蔵の発端に刃傷事件=老中井上正就、大老堀田正俊、田沼意次の子意知。いずれも即死。唯一の失敗例

- 17) 富士見多間 (現存) 石室 (現存) 中奥御座の間跡 (遠望)
- ①富士見多間=説明パネルに皇居側一般参賀コースからの写真
 - 多間=内部を武器庫にした塀。緊急時は庫内から弓鉄砲を
 - ②石室=非常倉庫?
 - ③中奥御座の間跡=将軍プライベートルーム。小姓に囲まれて寝食

- 18) 天守閣跡、天守台 (現存)
- ①天守閣の定義=城の象徴で中心となる高層の櫓
 - ②江戸城3つの天守閣ともう1つの天守台 (高さに諸説がある)
 - 初代天守閣 (慶長12年) 家康 (秀忠) =天守台20m、総高さ80m。日本最大の天守閣
 - 2代" (元和8年) 秀忠=天守台13m、総高さ70m。本丸拡大で移築
 - 3代" (寛永15年) 家光=天守台13m、総高さ64m。華麗に作り替え、明暦大火で焼失
 - 4代天守台 (明暦4年) 家綱=天守台のみ、天守閣建造に至らず。現存
 - ③最後の天守閣=5重6階、小天守。銅瓦葺き入母屋屋根シャチ、飾り破風多数
 - ④現存天守台=白御影石高さ12.7m、小天守。加賀前田家構築

本丸町成へ登城する大広間

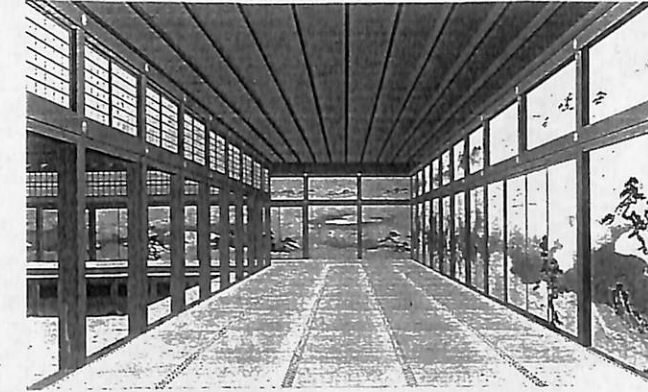
大広間



本丸町成アト



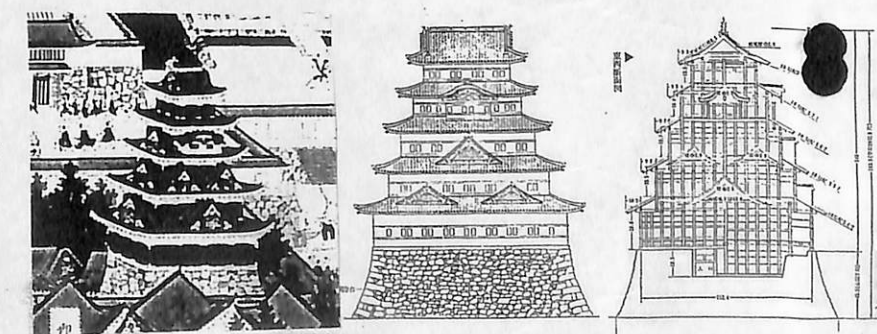
富士見ヤグラ



松の廊下



天守閣

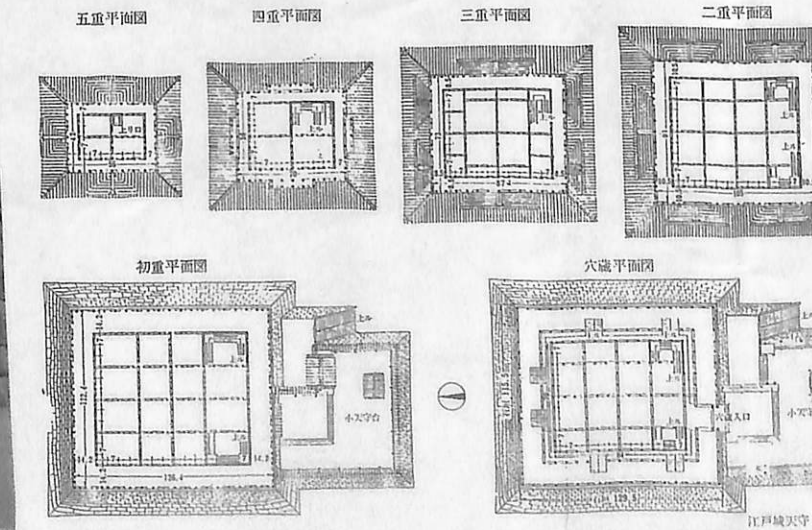


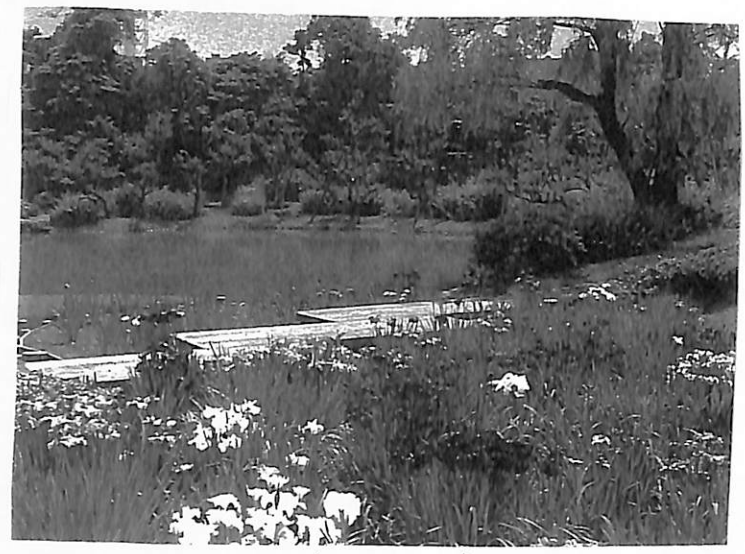
- 13) 書院前御門跡 (中雀御門) (石垣現存)
- ①江戸城最後の城門で本丸正門。書院番士警固
 - ②登石段、高麗門、内枳形右折れ、渡櫓門 (19×4間)、御書院櫓 (2重)、書院出櫓 (2重)、続多間櫓

- 14) 本丸殿舎跡、大広間跡
- ①本丸殿舎=江戸城の中心となる御殿。初代家康から14代将軍家茂までの居城
 - 総建坪 1万1千坪 中奥 (将軍官邸) 2千坪
 - 表向き (政庁) 3千坪 大奥 (御台所、側室居所) 6千坪
 - ②玄関、遠侍、台所、大広間、白書院、黒書院、中奥、大奥などを廊下で結ぶ
 - 火災起きたら全焼。5回焼失、建造は8回、主要図面ほぼ現存。前回踏襲し変化少ない
 - ③弘化2年度造営経費170万両。最後の本丸は文久3年焼失、予算なく再建できない
 - 幕末5年間は西の丸仮本丸で代行
 - ④大広間跡=本丸碑。権威の演出舞台



天守台





北はね橋河辺石垣

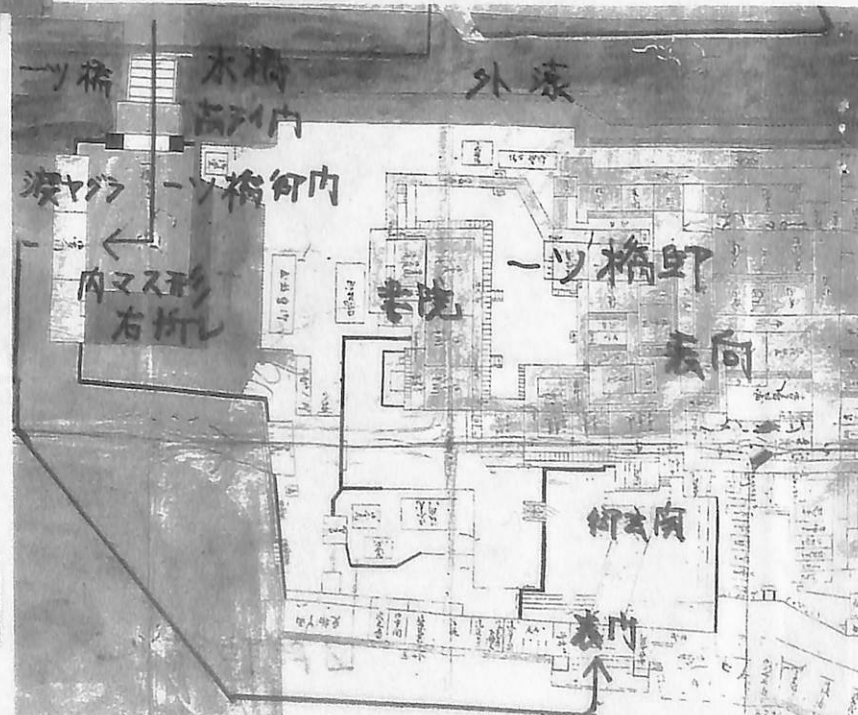
2の丸後元庭園

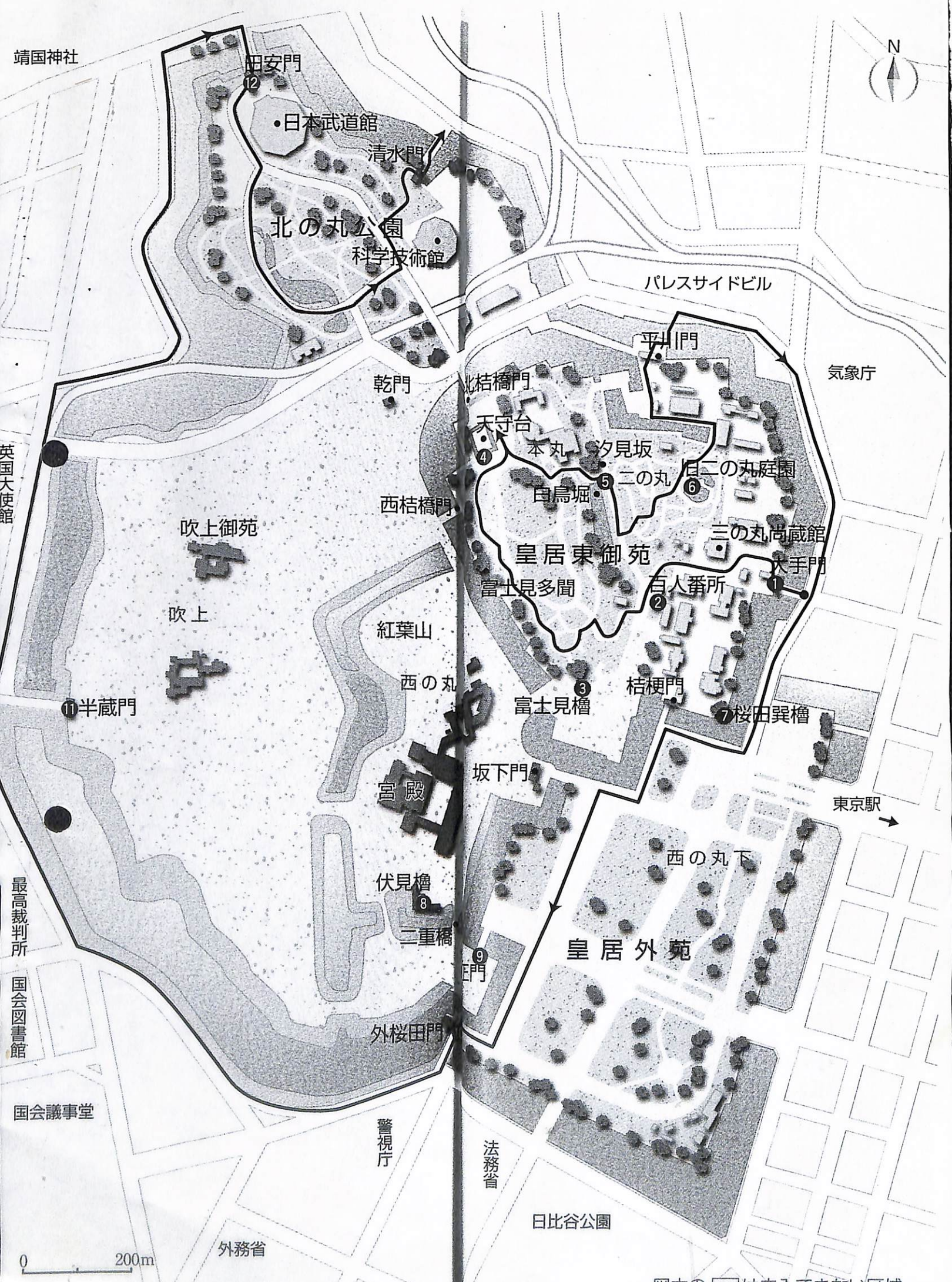
- 19) 北の丸公園 (昼食)
北の丸は次回「江戸城裏側」で説明。今回は昼食休憩のみ
- 20) 北はね橋御門 (一部現存材復元) 周辺石垣 (現存)
 - ①橋台と周辺石垣=高い石垣に深い濠底、思わず息を呑む迫力。堅固、壮大重厚、権力の象徴
石材担当者の刻印
 - ②はね橋=高麗門に引き上げの滑車金具。通常は開かずの門、緊急時に架橋
 - ③枳形門=維新後枳形と渡櫓を撤去、高麗門、木橋復元
- 21) 大奥跡
 - ①将軍家ハーレム。常時500人~2,000人。幕府財政を圧迫。大奥に3つの区分。御殿向き=御台所居所、長局向き=側室と大奥女中居住、広敷向き=役人の執務所
 - ②お鈴廊下=将軍奥入り通路。男子禁制
 - ③桃華楽堂=昭和皇后の還暦を記念した音楽堂。楽部=宮中雅楽伝承。書陵部=旧幕府文書保管
- 22) 台所櫓跡展望台、本丸休憩所 (小休憩)
 - ①台所櫓=本丸台所前白鳥濠石垣先端。慶長11年建造、安政6年、文久3年焼失、幕末はなし
3重櫓。初重平側千鳥破風、2重妻側唐破風、入母屋屋根本瓦葺きシャチ平側唐破風
 - ②展望台=2の丸公園の先に丸の内など都心ビルが望める
- 23) 塩見坂、塩見御門跡
 - ①塩見坂、塩見御門=2の丸から本丸へ上がる坂と門。江戸湾を望む。昔も年寄りに辛い登り坂
 - ②白鳥濠と本丸石垣=本丸石垣の迫力と白鳥濠の美しさ。家光のとき水舞台
- 24) 2の丸庭園 (復元)
 - ①2の丸御殿=将軍世子邸、別荘。4代将軍家綱世子となった綱吉が大手町の館林藩邸から2の丸入りして後継をアピール
 - ②2の丸庭園=昭和43年東御苑開苑にあたって、3代将軍家光が小堀遠州に作らせた将軍家庭園を復元。池泉回遊式庭園。池中央の中島、土橋、滝の石組周辺がみどころ
- 25) 梅林 (現存) 下梅林坂御門跡 (周辺石垣現存)
 - ①梅林=中世江戸城で太田道灌が菅原道真を祀り梅を植えたという。戦時は非常食、城に多い。
早春は紅梅、白梅咲き乱れる
 - ②梅林坂=平河御門を通用門とした大奥女性たちの通路
 - ③下梅林御門=3の丸と2の丸間の濠と土橋、門。平河濠と天神濠を交錯させた防御ライン、周辺通路の屈曲を戦略的に読む
 - ④3の丸=3の丸御殿 (前出)。現在は馬場など

- 26) 平川橋 (復元) 平川御門 (周辺石垣現存、一部現存材復元)
 - ①大手前郭と江戸城を結ぶ橋と門。3の丸御殿の正門、大奥通用門。濠は大手濠
 - ②太田道灌時代からの城門、慶長11年枳形門、寛永12年土井利勝、酒井忠世再構築
 - ③渡櫓門 (18x4間)、内枳形左折れ、ガンギ坂、銃座、高麗門
 - ④不浄門=死者や罪人を搬出。忠臣蔵の浅野内匠頭は施錠カゴ、大奥老女絵島は白橋袴ハダシで
 - ⑤木橋 (復元)=慶長19年、寛永元年銘擬宝珠
 - ⑥帯郭=平川濠を内濠、外濠に共用するため中央に築いた帯郭で2分。珍しい造り
- 27) 御三卿徳川一ツ橋邸跡、一ツ橋御門跡
 - ①徳川一ツ橋家=8代将軍吉宗4男宗尹からはじまる御三卿。10万石。徳川将軍家の家族で万一に備えた予備血統。11代家斉と15代慶喜が将軍に迎えられた
建坪1万7千坪。丸紅ビル、竹橋ビル、気象庁、東京消防庁、大手町合同庁舎1~3
 - ②一ツ橋御門=外濠2つ目の橋と門。一ツ橋家正門。かつて枳形門、周辺石垣の一部が現存
- 28) 大手町駅または竹橋駅 (解散)
(東西線竹橋駅 ——) 丸の内線大手町駅 —— JR東京駅 —— 総武線快速で八幡宿駅へ以上



徳川皮孝 一ツ橋邸古写真





34 江戸城史跡探訪

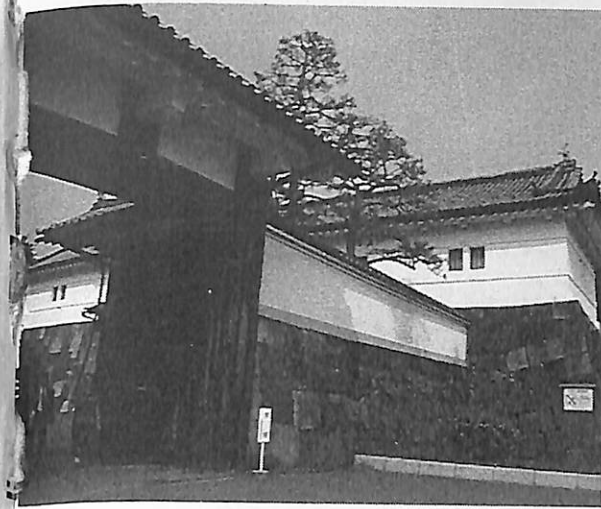
堀に映る緑が心地よい皇居を訪ねて、徳川15代の光と影をとどめる江戸城の歴史をひもとく。

緑に囲まれた堀と二重橋といえは皇居。明治以前の江戸城である。この地に最初に城を築いたのが室町中期の武將・太田道灌。その後天正18年(1590)徳川家康の関東転封に伴い今日の規模に改築、拡張された。以来徳川15代の居城として江戸の象徴であった。現存する建築物は少ないが、桜田門、富士見櫓などに当時の面影をさぐり、巨大な江戸城

を歴史歩きしてみよう。

地下鉄桜田門駅を出るとすぐが桜田門。渡櫓を抜け、松の木が点在する広大な皇居外苑を皇居のシンボル・二重橋へと向かう。二重橋と伏見櫓を見学したら坂下門、桔梗門から皇居東御苑の出入口にあたる大手門へ向かう。

入園札をもらって東御苑の中に入り二の丸庭園から天守閣跡へ。ここからの眺めはすばらしい。宮内庁書陵部の脇を通り平川門を抜ける。平川濠沿いに北桔橋門まで歩いて北の丸公園に入る。木立の中を散策したあと乾門に寄り、千鳥ヶ淵、半蔵濠と水辺を見ながら遊歩道を歩き半蔵門へ。地下鉄半蔵門駅へは新宿通り



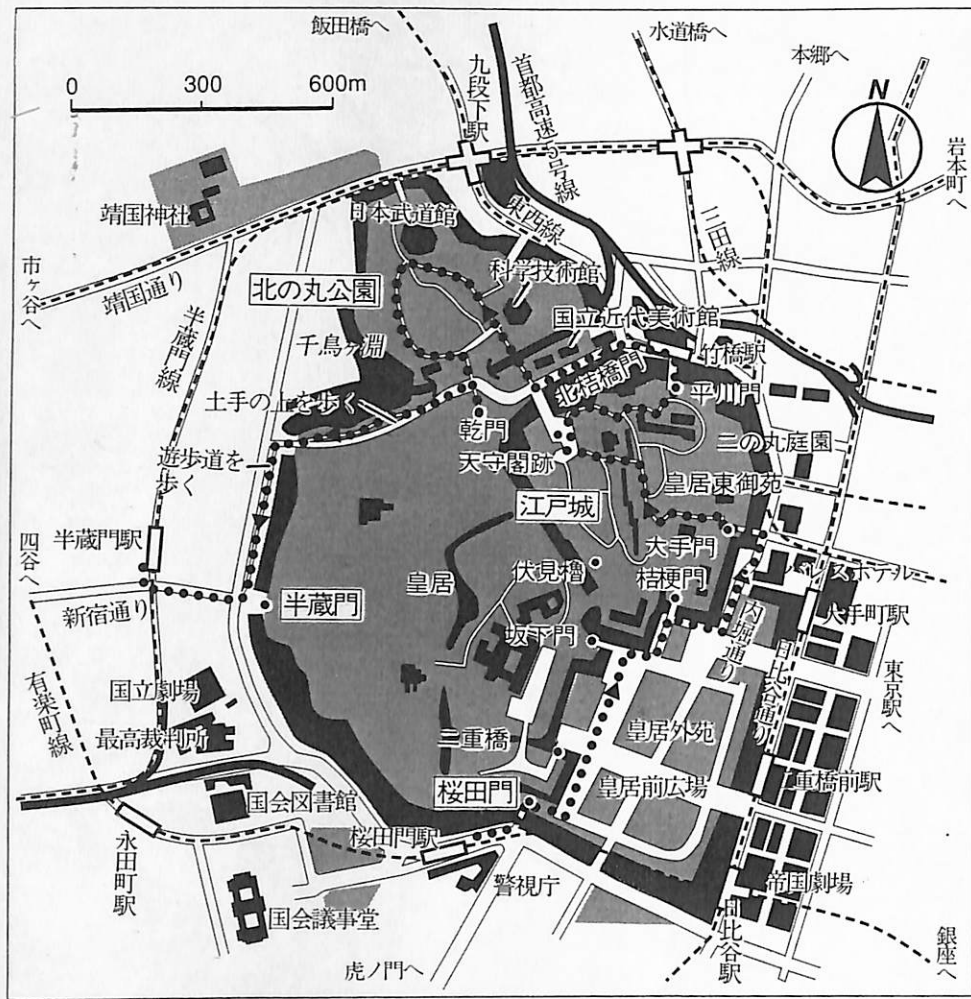
井伊直弼が暗殺された桜田門



重文の桔梗門とその渡櫓



ショウブが美しい二の丸庭園



インフォメーション

◆ 現地へのアクセス

地下鉄有楽町線桜田門駅から徒歩スタート

◆ 距離・所要時間

徒歩距離6.2km/所要時間約1時間20分

桜田門駅→(1分)→桜田門→(5分)→二重橋→(15分)→大手門→(5分)→二の丸庭園→(7分)→天守閣跡→(7分)→平川門→(10分)→北の丸公園→(12分)→乾門→(15分)→半蔵門→(3分)→地下鉄半蔵門線半蔵門駅

◆ 問い合わせ先

皇居東御苑 ☎03(3213)2050

北の丸公園管理事務所 ☎03(3211)7878

◆ 時間があれば

◆東京国立近代美術館 近代美術の啓蒙と普及を目的として昭和44年(1969)に開館。収蔵作品は6000点を超え、常設展示は、近代日本の美術の流れを年代に沿って通覧できるように構成されている。本館のほか、フィルムセンター、工

芸館も組織の一部。月曜休館(休日の場合は翌日)。10時~17時(夏季金曜のみ~20時)。常設展420円。

◆科学技術館 星をイメージした外壁で覆われ、上空から眺めるとまるで漢字「天」という字に見えるユニークなデザインの建物。昭和39年に開館して以来、科学技術系の人材育成のため、展示の充実、特別展の開催、催事場の活用等を通して、我が国における科学技術の普及に力を入れている。年末年始休。600円。

おすすめ文献・資料

- 江戸城/村井益男/中公新書45/1964
- 江戸城~その歴史と構造/小松和博/名著出版/1985
- 日本名城集成~江戸城/村井益男編/小学館/1986

ポイント

- ☆石垣に残った印に大名普請の跡をさぐる
- ☆古地図を手に歩くと当時の大きさがわかる

◆桜田門 内桜田門(桔梗門)

に対し外桜田門ともいう。西の丸南西内濠に位置する内郭門の一つ。寛文3年(1663)に建立された枳形門。万延元年(1860)、大老・井伊直弼が水戸と薩摩の浪士に暗殺された「桜田門外の変」で知られる。

◆皇居東御苑

かつての江戸城の中心であった本丸、二の丸、三の丸跡の21万㎡の庭園。昭和天皇が所蔵した美術工芸品約6千点を保存・公開する三の丸尚蔵館や、遺構として百人番所、巨石を積み上げた天守閣跡、忠臣蔵で知られる松之廊下跡(石碑のみ)などを見学できる。天守閣跡に

登り、江戸城を囲む現代的なビル群を眺めるのも楽しい。平川門、北桔橋門からも入苑できる。月・金曜休園。無料。

◆北の丸公園 清水濠、牛ヶ淵、千鳥ヶ淵の堀に囲まれた緑豊かな公園で、昭和44年(1969)に開放された。園内には日本武道館、科学技術館、東京国立近代美術館などが建ち、広い芝生公園で遊ぶ家族連れや若者の姿が多く見受けられる。日の出19時。無料。

◆半蔵門 もと服部半蔵の屋敷があったところで、現在のものは前の大戦で焼失したため吹上口門を移築した。一般公開はしていない。



明暦の大火以後、天守台はこの状態

皇居探訪マップ

旧江戸城は現在皇居として使用されているが、本丸と二の丸、三の丸の一部は皇居東御苑として、また、北の丸は北の丸公園、西の丸下は皇居外苑として一般に開放されている。

東御苑の見学要綱は次のとおり

- 開園日
火・水・木・土・日（天皇誕生日以外の国民の祝日などは開園する。月曜日が休日の場合は火曜日休園）
ただし、行事などがある日、12月28日から1月31日までは休園。
- 開園時間
3月1日から10月末日まで 9:00～16:30（入園は16:00まで）
11月1日から翌年2月末日まで 9:00～16:00（入園は15:30まで）
- 出入口
大手門・平川門・北桔橋門

なお、皇居外苑の外苑地区は、昭和24年（1949）に国民公園として旧皇室苑地の一部が、北の丸地区は昭和44年（1969）に森林公園として旧近衛連隊跡地が一般に開放された。また外苑の一部は日本武道館、科学技術館などの施設にも利用されている。
16～17ページの写真＝中田真澄



三の丸唯一の隅櫓で、
としては全国最大級。左側に見え
江戸城の櫓の特色。



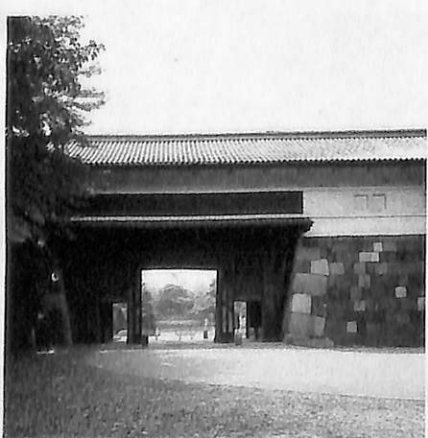
旧二の丸庭園 寛永20年（1643）の古図
を元に復元された庭園。



三橋と二重橋 手前の石橋は西の丸大
台22年（1389）に架け替えたもので、そ
二重橋。左端の門はかつての西の丸大手門で、
吾正門（現存）。「二重橋」の名は、堀が深
く、舟を三重に組んだことからついた。



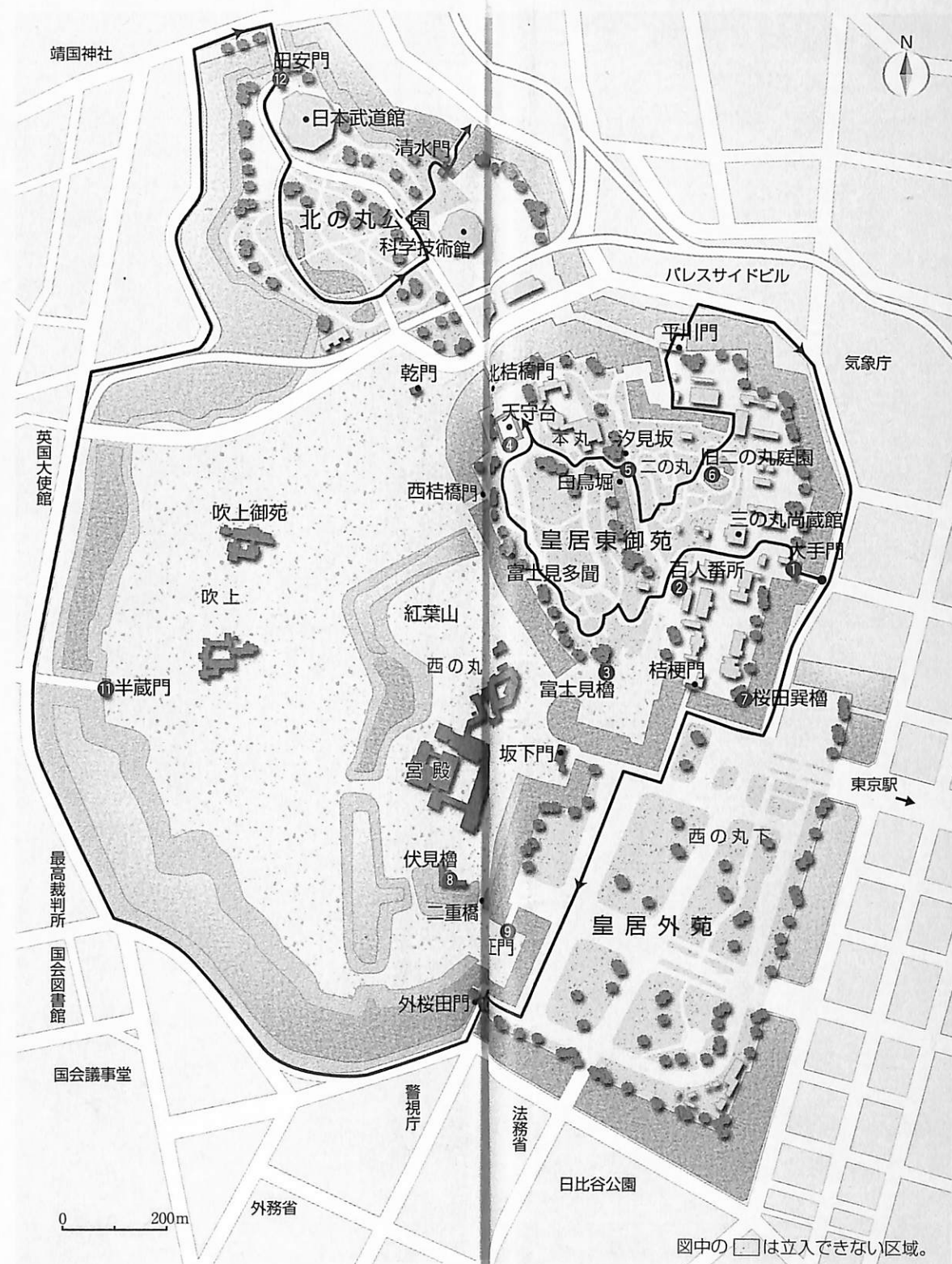
伏見櫓 西の丸にあった二重櫓で左右に付く多
層櫓とともに現存する。伏見城から移築された櫓と
の伝承はあるが、事実ではないらしい。



北の丸の北端にある田安門の櫓門で、
手には徳川御三卿の田安家の屋敷があった。
関東大震災で倒壊したが、戦後に復元
現在北の丸公園の入口である。

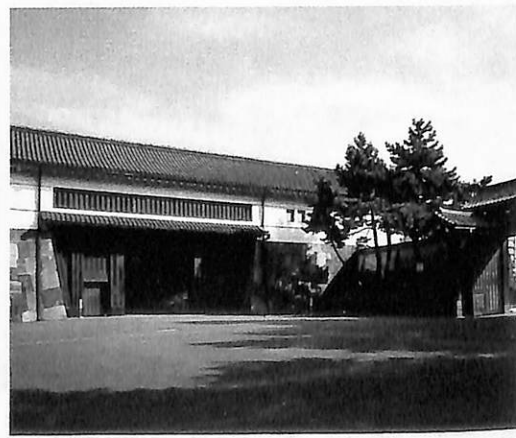


半蔵門 門の前に旗本服部半蔵の伊賀組屋敷が
あったことから付いた門名であるという。第二次世
界大戦で焼失し、現在建っている高麗門は和田倉門
から移築したもの。

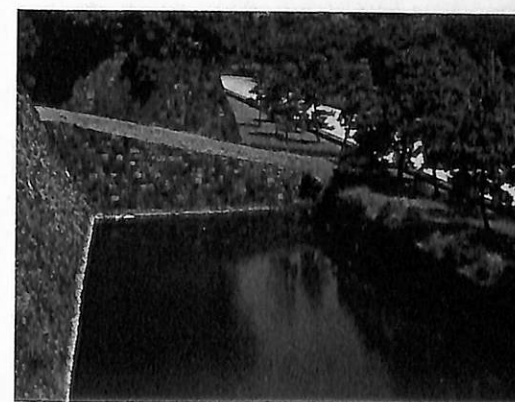


0 200m

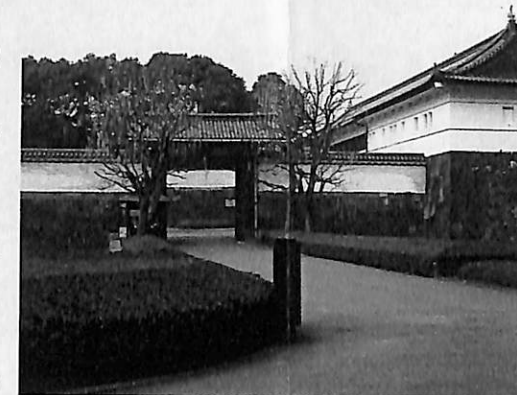
図中の□は立入できない区域。



外桜田門 城の南を押さえた重要な門。江戸
城の特色である巨大な櫓門（左）と右の高麗門で拵
形を構成。重要文化財。



白鳥堀と汐見坂 本丸と二の丸を仕切って、
今も満々と水をたたえる白鳥堀。奥の汐見坂は、か
つてここに立てば海が望めたことから名づけられた。
城内の絶景の一つ。



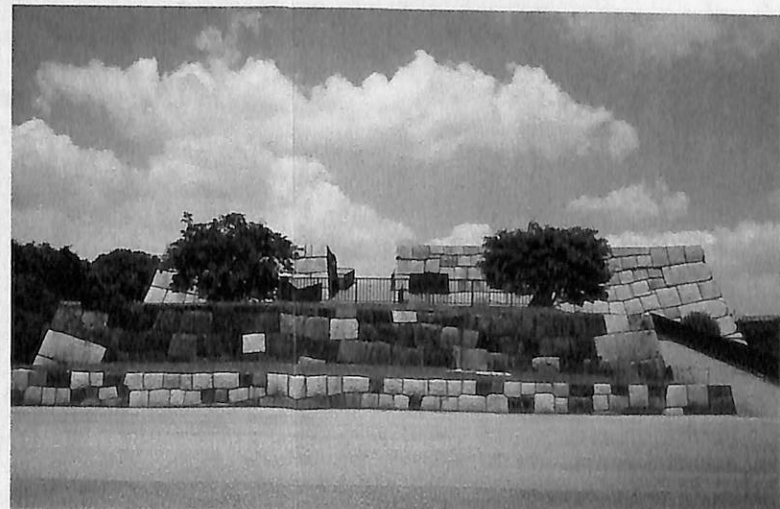
大手門 江戸城の正門で、諸門の中で最上位で
あった。櫓門（右）は第二次世界大戦で焼失、昭和
42年（1967）に復元された。高麗門（中央）はほ
ぼ江戸時代の姿を残している。



富士見櫓 天守が焼失してから、その代用と
された三重櫓。層塔型、総塗籠、出窓付きの三重櫓
は江戸幕府の定型。「八方正面の櫓」と称された。関
東大震災で倒壊したが復元された。



百人番所 城内で最大の検問所。4組各20騎
の与力と100人の同心が交代で詰めていた。数少な
い江戸城の現存遺構の一つ。



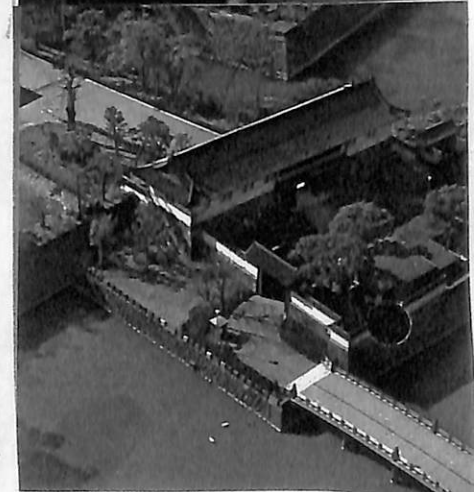
天守台 寛永度天守
が焼失した翌年の明暦4年
（=万治元年、1658）に
再築された。隙間なく積ま
れた巨石が実に見事であ
る。手前のやや低い部分は
小天守台。

主な見学ルートとみどころ ● 5月8日(火)

- ①和田倉御門跡=木橋は復元だが、周辺内濠と枡形石垣が旧態をとどめる
- ②皇居外苑=初期は榊原康政、井伊直政、本多忠勝ら重臣邸、後期は老中、若年寄ら幕閣官邸街、就任で拝領、退任で没収
- ③桜田巽櫓、桔梗御門、富士見櫓、江戸城定番の3点セット=江戸城を身近に感じさせる。白壁と老松の緑が内濠に写る
- ④大手門従者待合所跡=総登城日は登城ラッシュ。従者は大名家ごと敷物で下城待つ
- ⑤大手御門=江戸城の正門。伊達政宗造営。栄誉だが出費も莫大。格式ある高麗門、現存門扉の鉄板、釘に注目。圧倒する枡形と渡櫓門、堅固な備え。本物渡櫓門シャチを展示
- ⑥3の丸跡=3の丸御殿に綱吉生母桂昌院ら居住
- ⑦下乗橋、大手3の門跡=大名もここから先は徒歩、警固の同心番所、百人番所が現存
- ⑧幕府金蔵跡=何百万両ともいわれた大判、小判、金塊を保管。江戸後期2人組盗賊が未使用小判1万両を盗みだすが2年後に捕縛
- ⑨中の御門跡=巨石にも注目。切込みハギは精密加工した石材をレンガのように積み上げる
- ⑩本丸石垣=高さ30m、慶長9~12年の第1期江戸城工事の遺跡。打ち込みハギはあら加工した石材を積み上げる。コーナーは算木組。長方形の大石を縦横交互に積み上げる。
- ⑪書院前御門跡=最後の城門で本丸正門。登城大名を番士が平伏して迎える
- ⑫本丸殿舎跡、大広間跡=江戸城の中心御殿。初代家康から14代将軍家茂までの居城。1万1千坪。将軍権威の演出舞台
- ⑬富士見櫓=江戸中後期の代理天守閣。維新後も残ったが関東大震災で倒壊、現存材復元。歴代将軍が富士山や両国の花火を眺めた。
- ⑭松の大廊下跡=浅野内匠頭が吉良上野介に刃傷、忠臣蔵発端の地
- ⑮天守閣跡、天守台=初代は天守台20m、総高さ80m。秀忠、家光が再構。日本最大だが明暦大火で焼失。白御影石高さ13mの4代天守台が現存
- ⑯北の丸公園(昼食=弁当は持参または東京駅で購入)
- ⑰北はね橋御門=高い石垣に深い濠底、思わず息を呑む迫力。堅固、壮大重厚、権力の象徴。高麗門の滑車金具に注目
- ⑱大奥跡=将軍家ハーレム、常時500人~2,000人の女性居住。幕府財政を圧迫。お鈴廊下は将軍奥入り通路、男子禁制
- ⑲台所櫓跡展望台、本丸休憩所(小休憩)=2の丸公園の先に丸の内など都心ビルが望める
- ⑳塩見坂、白鳥濠=かつて江戸湾を望む。本丸石垣の迫力、白鳥濠に家光が水舞台を
- ㉑2の丸庭園=将軍世子邸、別荘。家光が小堀遠州に作らせた将軍家庭園を復元。池泉回遊式。中島、土橋、滝の石組などみどころ
- ㉒梅林=太田道灌が菅原道真を祀り梅を植える。早春なら紅梅、白梅咲き乱れるが
- ㉓梅林坂=平川御門を通用門とした大奥女性たちの通路
- ㉔平川橋、平川御門=3の丸御殿の正門、大奥通用門。付属の不浄門は死者や罪人を搬出口。浅野内匠頭は施錠カゴ、大奥老女絵島は白襦袢ハダシで
- ㉕徳川一ツ橋邸跡=吉宗4男宗尹からはじまる御三卿10万石。家斉と慶喜が将軍に
- ㉖一ツ橋御門跡=外濠2つ目の橋。かつて枡形門石垣一部が現存

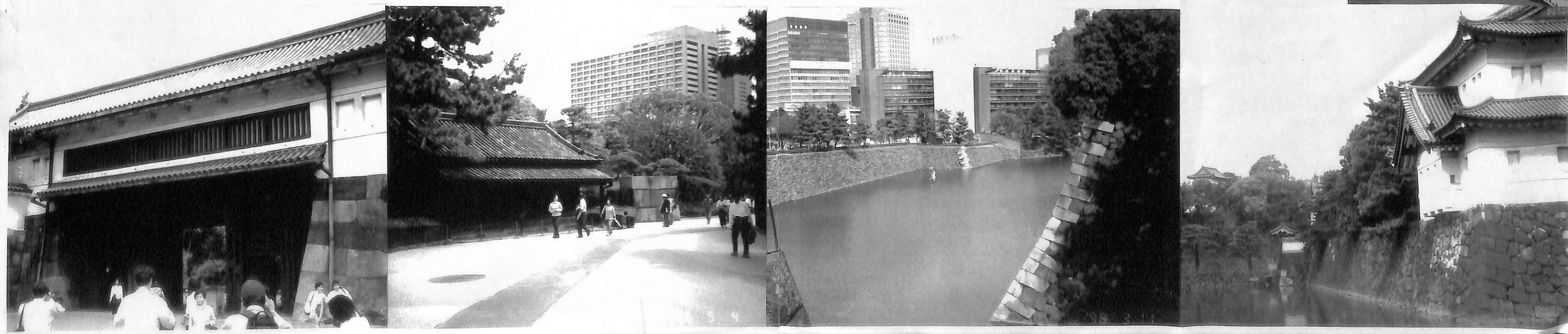
今回だけの参加もできます。お友だちを誘ってください。

城と史蹟を歩く会(市原) 42-2237 山岸弘明

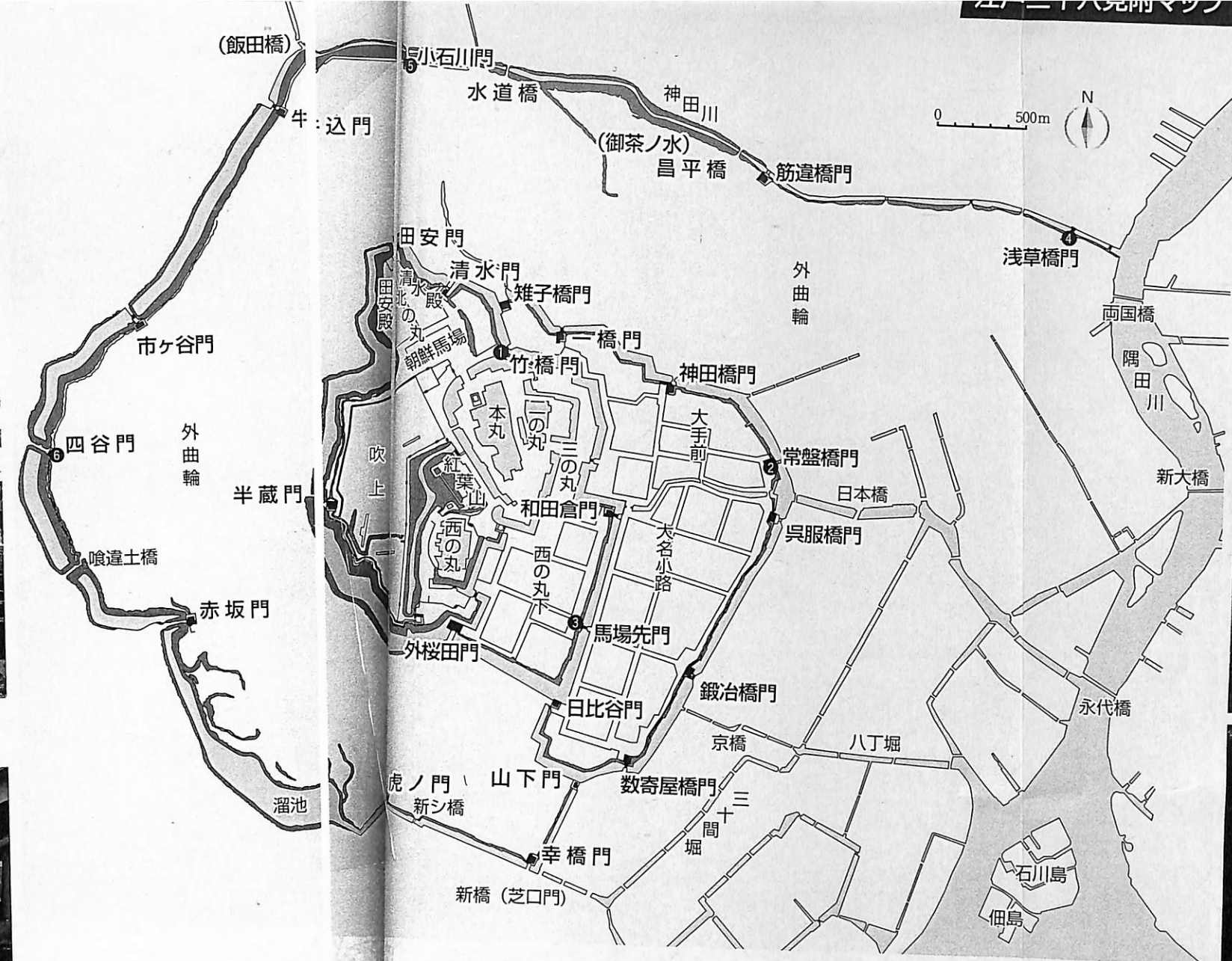


城と史蹟を歩く会*第3回「江戸城、皇居東御苑」*予告編

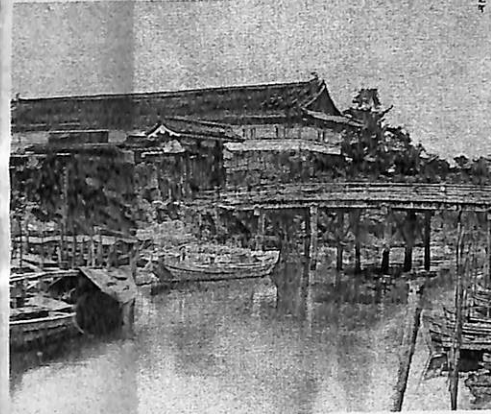
平成13年5月8日(火曜日=予備日15日)八幡宿駅8時10分乗車



見附とは、城門に番所を設け、門の出入りをたことから呼ばれる名である。江戸城の場合、設けられた^{まがたか}枳形門を見附と呼び、大名や上位のちが警備を担当した。ほとんどの城門が櫓門とかなる大規模なものであり、「三十六見附」としたが、そのなかには内郭の門も含まれ、実際に31を特定することは難しい。
 古写真のうち馬場先門は財団法人国会館所蔵の「彫鳴館秘蔵写真」以外には東京国立博物館所蔵の「江戸城写真帖」所収のものである(現状写真=中田真澄)



洗門の古写真(左)と現状写真(右) 古写真の方は堀端の高い位置から見ている。門の内側には旧幕閣があった。



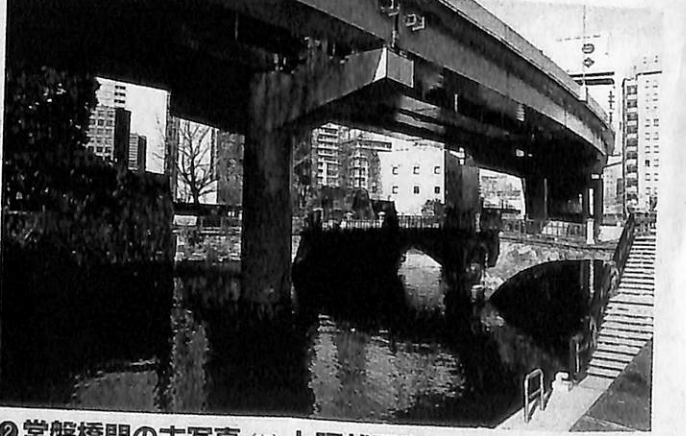
草橋門の古写真(左)と現状写真(右) 神田川の下流から浅草橋門を見ている。この橋をまっすぐ北東へ浅草寺がある。



石川門の古写真(左)と現状写真(右) 現在のJR水道橋西口あたり。現状写真にはかつての面影はない。

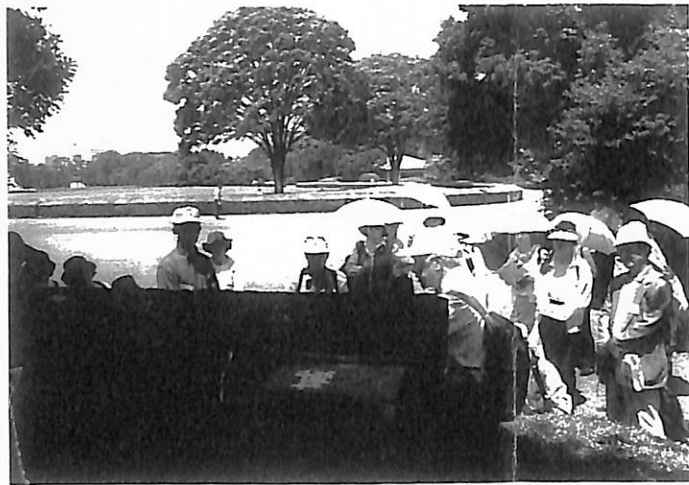


四谷門の古写真(左)と現状写真(右) 現在のJR四谷駅から半蔵門方面を望む。四谷門は半蔵門を起点に西へ向かう甲州街道に設けられた門。



竹橋門の古写真(上)と現状写真(下) 現在の地下鉄東西線竹橋駅あたり。現状写真の正面には国立近代美術館が見える。

常盤橋門の古写真(左)と現状写真(右) 現在の日本銀行本店の前から見ている。現在は枳形の石垣の一部が残るのみである。



城と史跡を歩く会

第 回 5月15日 江戸城、皇居東御苑を歩く

八幡宿駅8時10分乗車、蘇我京葉線乗換（座れます）、東京駅下車
 主なコース）和田倉門 — 坂下門 — 内桜田門 — 巽櫓 — 大手門
 — 大手3の門跡 — 本丸御殿跡 — 富士見櫓 — 松の廊下跡 —
 北はね橋 — 北の丸公園（昼食） — 天守台 — 大奥跡 — 2の丸庭園
 — 梅林門 — 平河門

参加29名

ご案内 山岸、飯沼 四分

